

来週の「売り物」記事はこれ



2016年1月29日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

津波にのまれた56万点の文化財

よみがえれ陸前高田のたからもの

31日(日)



2011年3月11日、東日本大震災の大津波は多くの命と人々の暮らしを奪い、地域の文化財のみこみしました。岩手県陸前高田市では市立博物館などの全収蔵品約56万点が水没しました。多くは地域の植物標本や民具、古文書など国宝でも重要文化財でもない「名もなき文化財」です。それでも、市立博物館の熊谷賢さん(49)は「文化財はこの土地の物語の証し。街は津波で壊されてしまったが、文化財を通じて高田そのものを未来へ残したい」と回収・修復作業に取り組み始めました。やがて、東京国立博物館、岩手県立博物館、国立科学博物館などオールジャパン体制の支援も広がります。震災発生から間もなく5年。これまでに約46万点を回収し、1万点の修復を終えています。気が遠くなるような作業に挑む熊谷さんたちの足跡をたどりました。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

米大統領選の共和党候補者指名争いで首位独走

「毒舌の帝王」トランプ氏が人気の理由

夕刊2面特集ワイド 2月1日(月)



11月の米大統領選に向けた共和党の候補者指名争いで、ニューヨークの不動産王、ドナルド・トランプ氏が支持率首位を独走しています。「イスラム教徒の入国を禁止する」と発言し、女性の対立候補を「あの顔で誰が投票するんだ?」と評するなど、暴言・放言を繰り返しているにもかかわらずです。従来ならとっくに指名争いから脱落しているはずなのに、なぜ人気なのでしょう。トランプ氏を支持する米国人たちの声を集め、専門家とともに考えました。

「Tokiko's Kiss」 おんなのしんぶん 2月1日(月)

普段は月1回、加藤登紀子さん=写真=とゲストとの対談を掲載していますが、今回は特別編です。加藤さんの歌手デビュー50周年と「おんなのしんぶん」2周年を記念し、昨年11月に東京都内で行われたトークイベントの様子をお伝えします。

加藤さんに関する著作もあるフリーライターの森綾さんが聞き手となり、デビュー当時からなどの写真を見ながら、加藤さん自身がこれまでの歩みを振り返っています。紙面では、加藤さんの事務所から提供された秘蔵写真も掲載しています。お楽しみに!



地震保険で再建足がかりに くらしナビ面 2月3日(水)



東日本大震災の発生から間もなく5年。地震で被災した場合、生活再建のよりどころとなるのが地震保険です。しかし、火災保険を新たに契約した人が地震保険にも加入する割合は2014年度で6割に達していません。最新の地震予測では、各地で発生確率が高まり、保険料は来年から全国平均約2割上がる見通しです。地震保険のポイントをまとめました。

歯を残して認知症予防

くらしナビ面 2月6日(土)

高齢になって歯を失うと認知症や骨折を起こしやすいことが歯科医師らの大規模調査で分かりました。歯を失ってかくむことが少なくなり、脳への刺激が減ることで脳の機能低下を招くと考えられます。義歯でも歯がないよりは予防効果があるそうです。歯のない人はぜひ、義歯をもうけ、できれば80歳を超えても、せめて20本の歯は残したいものです。



三島が目指したもの

朝刊文化面 2月6日(土)



著名な文学ゆかりの地を歩くシリーズ「名作の現場」で作家の島田雅彦さんは、三島由紀夫の最後の小説「豊饒(ほうじょう)の海」第1巻の「春の雪」を取り上げます。大正期の華族社会を舞台に、青年が禁じられた恋に命をかける悲劇がきらびやかな文体でつづられます。三島が目指したものは何だったのか。作品に登場する鎌倉(神奈川県)の屋敷を訪ね、島田さんが考えます。

第4次産業革命の幕開けか……

「I o T」で暮らしが変わる！

オピニオン面 [そこが聞きたい] 2月3日(水)

世界のインターネット人口は40億人とも言われています。そうしたなか、単に情報の伝達手段ではなく、モノとモノをインターネットでつなぐ、I o Tという考え方、技術が広がろうとしています。モノ同士をネットで結ぶと、人々の暮らしは格段に利便性を増すと期待されています。「新産業革命」と呼ぶ専門家もいます。新たな産業を生み出し、社会を変える力を秘めているI o T。最新のテクノロジーは、私たちにどんな未来を見せてくれるのでしょうか。情報科学の第一人者、村井純・慶應大教授にじっくり聞きました。



時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

「千の証言」

大型連載 「証言でつづる戦争」

2月5日(金)から



2・26事件を報道する東京日日新聞紙面

戦後70年で毎日新聞は、戦争体験者の証言を次世代に伝えるプロジェクト「千の証言」に取り組みました。1600通を超えた投稿は、貴重な歴史資料です。「証言を積み重ねれば国民が見た戦争史になるのでは」と考え、投稿者を全国に訪ねてもう一度、戦争体験に耳を傾けました。大型連載「証言でつづる戦争」は、まもなく80年を迎える2・26事件から始まります。